

イネモンガレ病の防除試験 (4)

田 口 吟
(富山県農業試験場)

モンガレ病防除薬剤としての、モンゼット水和剤と比較してモンゼット粉剤による効果を知るとともに、モンガレ病以外の病害との共通防除または共通予防を目的とした場合に水銀剤と混用できるかどうか、またこれにともなう増量剤の種類(特に石灰)による防除効果変動などを検討しようとした。試験は肥沃な壤土地帯(A試験)と砂質浅耕土地帯(B試験)で実施したが何れもモンガレ病の発生を助長させるため電熱育苗により早植(5月上旬)とした。供試農薬は、

- 1) No.1 セレサン16.7%+モンゼット3% (石灰で増量), 2) No.2 セレサン11.1%+モンゼット3%

- % (石灰で増量), 3) No.3 セレサン16.7%+モンゼット3% (タルク, カオリンで増量), 4) No.4 セレサン11.1%+モンゼット3% (タルク, カオリンで増量), 5) モンゼット粉剤(3%), 及び 6) モンゼット水和剤 2000倍液の6種とした。

【A試験】 当初予定した撒布日は7月5日であつたが当時は連日梅雨模様で撒布できず、7~8日に不連続線の通過でかなりの多雨があつたため7月10日(穂朶期)晴れ間をみて撒布した。しかし、撒布2時間後に夕立様の雨がありその後も連日梅雨が続いた。調査結果は第1表の通りである。

第1表 A 試験における発病調査 (3区平均)

試 験 区	罹病率 (%)			9 月 9 日 (収穫期)								
	月日 7.2	7.20	8.20	穂 数	甚	多	中	少	罹病率 %	被害度	収量比 %	
No.1	2.7	14.4	42.7	369.3	107.7	156.7	51.0	36.7	95.5	28.7	99.1	
No.2	2.8	10.6	32.5	375.3	134.7	117.3	56.0	34.7	91.3	32.9	107.3	
No.3	2.6	8.0	22.4	348.3	93.7	134.3	65.0	38.7	95.0	33.3	109.4	
No.4	2.7	21.0	53.6	389.3	59.7	150.0	102.7	38.3	92.3	26.6	106.6	
モンゼット粉剤	1.6	29.2	53.6	371.3	64.0	183.0	88.0	47.3	98.7	30.0	107.7	
モンゼット水和剤	2.5	12.4	48.9	350.0	53.3	117.3	52.0	58.3	80.4	22.0	107.3	
無 撒 布	4.7	47.1	64.6	336.3	64.3	160.7	70.0	28.3	96.1	27.6	100.0	

【B試験】 薬剤撒布は7月4日の梅雨の晴れ間に撒布したがA試験同様其の後も梅雨が続く、薬剤の附着が懸念されたほか全般的にN質肥料が少なかつたためにモンガレ病発生が少なく、さらに、出穂期のフエーン現象により白穂が多発したため其の後の調査はできなかつた。調査結果は第2表の通りである。

これらの成績から防除効果を検討すると、多少各區間に生育差があつたが粉剤に比べると全般に水和剤がすぐれ、粉剤では撒布後の降雨等により多少影響される面が考えられその効果は不安定のようなものである。撒布区全般が撒布当初においては無撒布と比べてかなりの効力差を示していたが、収穫が近づくにつれて水和剤のほかはその差をちぢめ無撒布と変らないものもあつた。さらに粉剤間では全般にモンゼット単用より水銀剤を混じた方が有効しかつたが、それに要する増量剤の間には一定の傾向は見られなかつた。これと同時に調査する予定であ

第2表 B試験における発病調査 (3区平均)

区別	項目 調査月日	罹病率 (%)				8月3日調査 の内訳 (本)		
		7.3	7.11	7.19	8.3	多	中	少
No.1		1.01	2.08	1.23	1.08	0	3	8
No.2		2.41	2.13	1.64	0.71	0	0	7
No.3		0.93	1.43	1.61	1.54	3	4	9
No.4		1.95	2.24	1.26	0.44	0	0	4
モンゼット粉剤		1.68	6.58	1.48	0.10	0	0	1
モンゼット水和剤		2.76	2.84	2.29	0.31	0	0	3
無 撒 布		3.03	3.62	5.48	4.22	0	3	34

つた稲小粒キンカク病及びイモチ病については少発生のため目的を果さなかつた。さらに、梅雨が長くその期間中に撒布を実施する場合には2回或はそれ以上の撒布が必要であると考えられる。